

授業改善等に関する報告書（2020年後期）

授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS (Lerning Management System) manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

[2020（後期）英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
イギリス文学・文化演習 d	諏訪 友亮	<p>受講生の皆さんへ</p> <p>後期お疲れさまでした。授業評価はほぼ平均通りでしたが、「説明がわかりやすかった」のポイントの高さに比べて、「板書、パワーポイント、配布資料などはわかりやすかった」のポイントが低めだったでしょうか。来年の対面授業ではパワーポイントでもう少しメリハリをつけた提示の仕方にしようと思います。</p> <p>併せて、授業前に作品についてのアンケートを集めたり、対面授業ではグループワークと簡単なタスクを増やし、作品を読むだけに留まらない授業にしていこうと考えています。</p> <p>それでは就活、卒論の健闘を祈ります。</p>
アメリカ文学史 a	稲垣 伸一	<p>初めてオンデマンドでこの授業を行いました。ほとんどの履修者が毎回熱心に授業に取り組んでくれたと思います。毎回行った小テストが初めての試みだったため、正解の設定等に不備が何度か見られました。来年度に向けての改善点としては、小テストの内容や設定をブラッシュアップしていくことと、質問等をしやすいチャンネルを教員・学生間に構築することを考えています。</p>
英語圏の詩	諏訪 友亮	<p>受講生の皆さんへ</p> <p>後期お疲れさまでした。英文学科では今年度も来年度も講義科目はすべて「オンデマンド」で実施になっています。そのため、双方向性に欠けたり、対面でできないというのはそもそもの前提として理解いただければと思います。</p> <p>授業内容が長くて難しかったというコメントをもらっています。授業動画も1回90分近くになっていましたし、来年度はトピックごとに動画を分割・編集し（パソコンを新調したので動画編集ができるようになります）、単語の小テストやタスクを織り交ぜたりして、授業内容の理解を図りたいと考えています。</p> <p>戦争期のショッキングな映像に対して事前に告知してほしかったという意見ももらいました。これについては次年度に改善し、動画のタイトルにもその旨を記載したいと思います。</p> <p>皆さんの貴重なコメント、評価ありがとうございました。</p>
特殊演習 b	深瀬 有希子	<p>アンケートの回答をありがとうございました。領域横断的な授業で、私自身も一部、手探りのところがあったのですが、毎回、充実したハンドアウトの作成と、zoom授業にもかかわらず毎回の出席をありがとうございました。今回の授業をさらに発展させていきたいと思っています。この調子で、充実した卒業論文を完成されますこと、陰ながら応援しております。何かあれば、お気軽にお問い合わせ下さい。</p>
イギリス文学・文化講義 d	伊澤 高志	<p>アンケートのお願いをするのが遅くなり、回答数が少なくなりましたが、回答してくれたみなさんには感謝いたします。まだまだ授業改善の余地があるので、今後もより良い授業にできるように努めていきます。</p>
Paragraph Writing b	富塚 亮平	<p>授業内での告知を失念しており、あまり多くの方に解答頂けなかった点は申し訳ございませんでした。授業内容については高評価をいただいた一方、前期の他クラスの授業同様に、声の聞き取りやすさについては厳しい評価となりました。自宅PC周辺の環境について個人で対応できることには限りがあることも確かなのですが、来年度再びオンライン授業の機会があった際には、改善に向け努力したいと思います。</p>

[2020（後期）英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
Paragraph Writing b	金田 迪子	<p>2020年度後期も、前期に引き続き、全ての回をオンデマンド形式での資料配信の形で実施しました。前期のフィードバックを反映したパワーポイントや配布資料についてはスコアの改善が見られるものの、音声録音については3.83という低い評価となっており、改善の必要性を感じました。また、授業スピードについても、前期から引き続き望ましいスコアが出ておらず、検討を進めていきたいと思っております。</p> <p>一方で、前期に4.50を切っていた授業のわかりやすさについて、4.67と前期を上回る評価を得ることができました。TOEICやTOEFLといった検定試験での得点を目指すような、一歩進んだ英語運用能力の獲得のためには、文法的な概念や用語の理解は避けては通れませんが、授業に参加する学生の側の気持ちになり、文法理解の重要性を発信するとともに、できるだけわかりやすい解説の方法や配布資料の作成、声の大きさやスピードなどのパフォーマンスの向上を意識していきたいと思っております。</p> <p>今年度は着任初年度となったことに加え、新型コロナウイルス感染対策にかかる業務が激増し、フィードバックの回数が非常に限られてしまったことを大変申し訳なく思います。同時に、これまでその効果や影響について踏み込んで考えることの少なかったフィードバックが、受講学生にとって大きな意味を持ち、授業において大きな部分を占めていることに気付かされた年でもありました。科目平均評価が全体平均を下回ってしまったことを重く受け止め、フィードバック主体の授業モデルについて模索していきたいと思っております。今年度の受講者の皆様には、本当に申し訳ございませんでしたが、最後まで協力的に授業にご参加いただき、頭の下がる思いです。本当にありがとうございました。</p>
Paragraph Writing b	諏訪 友亮	<p>受講生の皆さんへ</p> <p>後期お疲れさまでした。 この授業の評価は平均よりも高かったです。しかし、回答自体が少なく、あまり評価を鵜呑みにはできないとも考えています。レスポンスによる小テストの導入は授業の後半になってからでしたし、次回からは授業開始以降こうしたタスク、結果をすぐに共有する方法を採っていく予定です。来年以降もよろしく願いいたします。</p>
Paragraph Writing b	土屋 結城	<p>英語でのライティング能力を中心に全体的なスキルアップを目的とした授業であり、授業アンケートでは、回答率が低かったものの、「シラバスの内容や到達目標と一致していたか」「各回の授業の進むスピードは適切だったか」「説明はわかりやすかったか」「板書やパワーポイント、配布資料はわかりやすかったか」といった項目で4.75の評価を得た。授業の目的、内容に関して一定の理解を得られたと思う。課題としては、オンライン授業での双方向性の確保、アンケートについての告知を十分にすることが挙げられる。</p>
Basic Grammar b	猪熊 作巳	<p>やや単調な授業デザインになってしまいましたが、ペースを守ってよく頑張ってくれたと思います。</p>
中世イギリス文学・文化演習 f	大関 啓子	<p>アンケートに答えてくださってありがとうございました。最初に、中世英国の状況説明などに少々時間を割きすぎたかもしれません。4年生だけの、しかも5名の受講者の演習で毎週必ず指名される、しかも中世英文学という極めて特殊な科目に、皆さんが最後までついてきて下さって感謝。例年ですと、教室で、中世写本の複製版を、手に取って見たりできたのですが、今年は、そうした実習ができず残念でした。でも皆さんは、毎週「吟遊詩人のように読む」を実行してくれました。</p> <p>「中世英文学」というタイトルの科目は、これが最後になります。この特殊な経験は、きっと社会に出て、皆さんの役に立つと思います。どうぞお健やかで。</p>
イギリスの文化と社会	志渡岡 理恵	<p>すべてオンデマンドで行い(パワーポイントとPDF資料)、毎回授業で最も関心を持ったこととその理由(200字程度)をレポート提出してもらった。パワーポイントには要点をできるだけ簡潔にまとめ、もっと詳しく学びたい受講生のためにPDF資料を3~5枚配布した。</p> <p>アンケートには93名中46名が回答、満足度は4.3だった。「イギリスの歴史や女性の変化についての理解が深まった」、「さまざまな面からイギリスの文化や社会について学べて面白かった」、「講義で学んだことを活かしたり、自分で調べたりする力が身についた」、「パワーポイントが分かりやすかった」などのコメントが多かったので、資料作成はある程度うまくいったのではないと思う。一方で、「とても興味のある授業だったけど対面でなかったことが残念に思う」というコメントがあった。オンラインではうまく使えない映像資料があったり、説明不足の部分があったりしたので、さらなる工夫をしたい(この授業は来年度もオンデマンドのため)。</p>
アメリカ文学・文化演習 f	佐々木 真理	<p>本年度は、Zoomとオンデマンドを組み合わせる形で授業を行いました。Zoom授業では担当者が皆さんよく調べて発表して下さって、非常に楽しく授業を進めることができました。アンケートを拝見すると、本授業で扱ったテーマについて、理解を深めたとの意見があり、よかったと思っております。</p>

[2020（後期）英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
卒論セミナー b	稲垣 伸一	対面での指導がほとんどできなかったにもかかわらず、今年度の履修者の皆さんは非常によく毎回の課題をこなして卒論執筆を行ってくれたと思います。そのため、最初は不安があったZoomでの個人面談も概ね問題なく進めることができました。皆さん、お疲れ様でした。
卒論セミナー b	諏訪 友亮	卒論の執筆、お疲れさまでした。 皆が無事に提出できてよかったです。 来年度以降の皆さんの活躍を心から願っています。
卒論セミナー b	村上 まどか	合宿もなく、ズームが主体という、異例ずくめの卒論セミナーでした。でも自分自身の興味の対象に主体的に取り組んで成果を挙げ、成長が感じられたとしたら、それでよかったと思います。与えられた環境で全力を尽くすことを学びました。
イギリス文学・文化演習 b	大関 啓子	アンケートの回答、ありがとうございます。後期に入ったとはいえ、COVID-19の限られた状況下で、3・4年生の皆さんが、C. S. Lewisの世界を楽しんでくださった。『ナルニア』の著者としてだけでなく、中世英文学者としての、Lewisの英語を味わってくださったことが、良かったと思います。人を優しく思いやる心とその広い考え方も、今後の皆さんの生活に、活かしてください。お健やかで。
アメリカ文学・文化演習 h	志賀 俊介	少人数のクラスでしたが、プレゼンやディスカッションなどを通して意見を交換することができました。プレゼンはしっかりリサーチされたものが多く、新たな視点を与えてくれました。毎回グループディスカッションの時間を取り、しっかり参加しているかどうか各グループをまわる必要もあったのかなと思っています（教員が入ることで自由な議論がしにくくなるかもしれないとも考え、学生の皆さんに任せました）。レポートも全体的にレベルが高く、しっかり論理的に考察されているものが多かったです。
言語習得論	猪熊 作巳	あまり経験のない内容、課題だったと思いますが、非常に積極的に取り組んでくれた学生が多く、喜ばしく思います。
Intensive Reading b	村上 まどか	みなさんよく勉強してDクラスとは思えない出来栄でした。ただ訳すだけでなく、こなれた訳をするという点に共感してもらえたようで、よかったですと思います。担当学生が訳を完璧にすると、教員が少ししか解説しないので分からなくなったという意見もありましたが、構文は解説していたはずであり、単語は自分で調べて覚えるべきなので、がんばってください。
Academic English	稲垣 伸一	毎回の課題をほとんどの履修者の皆さんがよくこなしてくれたと思います。提出された英文の課題には、できれば対面で指導をしたかったところですが、なんとか工夫してコメント付で返却しました。難しい課題を皆さんよく考えて提出してくれたと思います。ごくろうさまでした。
Academic English	猪熊 作巳	母数が少ないため細かいコメントは控えますが、制約の強い環境下で、自分なりの努力と工夫を見せてくれた学生が多かった印象です。
Academic English	佐々木 真理	Zoomとオンデマンドを組み合わせる形で授業を進めましたが、本授業の目的である、英語で自らの意見を表現する能力を育成する、につながったことを願っています。反省点は、こちらのアンケートの提出を最後の授業時に周知するのを忘れてしまったことです。
Academic English	土屋 結城	3年生後期の必修科目ということで、卒業論文につながるような英語でのライティング能力、リーディング能力を中心に全体的な英語のスキルアップを目的とした授業であり、授業アンケートでは、回答率が低かったものの、「シラバスの内容や到達目標と一致していたか」「各回の授業の進むスピードは適切だったか」「説明はわかりやすかったか」「板書やパワーポイント、配布資料はわかりやすかったか」といった項目で4.67~5.00の評価を得た。授業の目的、内容に関して一定の理解を得られたと思う。課題としては、オンライン授業での双方向性の確保、アンケートについての告知を十分にすることが挙げられる。
卒論セミナー b	深瀬 有希子	アンケートへの回答をありがとうございました。コロナ禍のなか、これまでの4年間の集大成としての、充実した卒業論文をそれぞれが完成されたこと、本当に嬉しく思います。困難な状況においても、（時間的にも余裕をもって）完成されたことについて、ご卒業後の人生において、自信をもっていただければと思います。今後の皆様のご健康とご多幸を陰ながら応援しています！何かあれば、実践に気軽にお寄りください。

[2020（後期）英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
女性と英語圏文学 b	佐々木 真理	授業アンケートのコメントを拝見すると、皆さんがこの授業で扱った作品や作家に関心を持ってくださったことがわかり、とても嬉しく思っています。受講者数が多かったこともあり、小テストのフィードバックが個別にできなかったのが反省点です。
英語学演習 d	村上 まどか	この授業は、ズーム双方向型のなかでも最もやりにくいと村上自身も感じていましたが、アンケート結果にもそれが表れていますね。けれども英語学の問題演習は、論理的思考を養うのに最適な頭の訓練ですので、地道に取り組んで欲しいです。
卒論セミナー b	志渡岡 理恵	卒論完成を目指す授業で、個人面談（Zoom）と発表（zoom）の組み合わせで行った。アンケートを授業内で行えなかったこともあり、16名中、回答者は4名だった。今回は授業で行うように注意しなければならない。4名のうち3名は満足度が高かったが1名は低く、結果4.0だった。「やりとりがほとんどなかった」というコメントが1つあったので、受講生の進捗状況などにより、個人面談の回数や時期にばらつきがでたので、それが影響したのかもわからない。
英語学概論 b	村上 まどか	村上としても録画の配信と小テストを重ねる授業は初めてであり、試行錯誤などがあった。しかしレスポンスによる匿名アンケートによって、大教室の対面授業よりも学生とのやりとりが増え、改良していくことができたのは収穫だった。最終的には好評なコメントが多く、安堵した。これからも、ただ英語力を伸ばすだけでなく、英語に関するいろいろなことを学んでほしい。
イギリス文学・文化講義 b	大関 啓子	アンケートの回答ありがとうございます。後期に入ったとはいえ、COVID-19の限られた状況下での授業でしたが、皆さんがそれぞれの専門分野を活かして、レポートを提出して下さい安心してました。毎年、教室で、"The Book of Kells"などでケルトの文様を見たり実物に触れていましたが、それも一切できず、ほとんど映像をお見せするだけになり、最後の講義として、とても残念です。時代も世界もジャンルも限らず、あまりにも広い範囲のケルトでしたが、皆さん、今後はどうぞお健やかで、それぞれ専門の分野で、この経験を活かしてください。
卒論セミナー b	猪熊 作巳	難しい環境下でそれぞれよく努力しました。
卒論セミナー b	土屋 結城	大学での学びの集大成となる卒業論文に向けての授業であり、アンケートの回答率は低かったが、「シラバスの内容や到達目標と一致していたか」「各回の授業の進むスピードは適切だったか」「説明はわかりやすかったか」「双方向授業等の工夫がなされていたか」「板書やパワーポイント、配布資料はわかりやすかったか」「担当教員の声や言葉は聞き取りやすかったか」といった項目で4.75~5.00の評価を得た。概ね授業の目的は達成できたと判断して良いと思う。課題としては、アンケートの回答率を上げるために告知に十分な期間を取ること、並びにさらに専門的に学びたいと思うような意識づけをすることが挙げられる。
英文入門セミナー	大関 啓子	アンケートの回答、ありがとうございます。前期に続き、COVID-19の状況下で、対面授業も1回だけになってしまいました。1年生のこの科目は、最も皆さんとお会いして授業がしたかった科目です。その限られた中で、皆さんは、本当に一生懸命に頑張ってくれました。担任として、我がクラスの皆さんを誇らしく思います。オンライン授業も、それぞれの環境下で努力して、自分の方法を改善しながら続けてくれました。「COVID-19で、なんて運が悪いのか」と嘆いていないで、それぞれが、前進できる方法を考えて、実行してくれた人が多かった。私も皆さんの明るい努力に励まされました。ありがとうございます！これからも、与えられた状況にめげずに、頑張ってください。最後にこのクラスの担任でいられたことに感謝です。皆さんどうぞお健やかで。
英文入門セミナー	稲垣 伸一	この授業が1年生にとってはクラスに当たるため、本来は対面で行い友人もこの授業を通してできるはずでしたが、それがほとんどかなわず残念でした。しかしそれにもかかわらず、ほとんどの履修者が課題に真剣に取り組んでくれたと思います。この授業で学んだことを来年度以降の授業に活かしてってください。みなさん、おつかれさまでした。

[2020（後期）英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
英文入門セミナー	志渡岡 理恵	<p>この授業は、①3分野の合同講義（オンデマンド）②3分野のリーディング教材の読解（オンデマンド+zoom）③プレゼンテーション（zoom）の組み合わせで行った。アンケートには28名中18名が回答し、（回答率は約65%）、満足度は4.5だった。</p> <p>リーディング教材は難易度が高めだったことから、内容理解の助けになるようなワークシートの作成に特に力を入れた。zoom授業までにワークシートの問題を解いて提出することで、分からない部分を自覚できるようにした。解説はzoomの画面共有で行い、英文の構造が分かるように赤を入れたファイルを復習用にmanabaにアップした。リーディングに関する好意的なコメントが多く、資料の分かりやすさ、説明の分かりやすさが共に4.78だったので、ワークシートとzoom解説はある程度うまくいったようだ。学生同士のやり取りの機会をもっと増やせればよかったと思う。</p>
英文入門セミナー	諏訪 友亮	<p>受講生の皆さんへ</p> <p>後期、そして1年間お疲れさまでした。この入門セミナーについては英文学科として毎年報告書をウェブ上に公開しています。興味があればそちらもご覧ください。</p> <p>この授業の評価は平均的でした。「説明はわかりやすかった」、「板書やパワーポイントはわかりやすかった」の項目のポイントは高かったのですが、「この授業に対する自己採点」が低くなっていました。これは、皆さんの授業中のコメントで何度も出ていた「論点を考えるのが難しい」ということが影響していると考えています。授業の早い段階で前年度の優秀なレポート例を提示して、どの程度の議論ができれば良いのかということを知ってもらうことで改善できればと思います。</p> <p>高校までとは異なる大学の学びについて戸惑う人は多かったでしょう。教員から言われたことをただ実行していればよかったこれまでとは違い、大学では自立して自ら考え行動することが求められます。期末レポートを見ても皆さんは「自立して自ら考え行動する」最初のレベルに到達しています。この調子で来年度以降も学びを深めていってくださることを願っています。</p>
英文入門セミナー	深瀬 有希子	<p>アンケートの回答をありがとうございました。コロナ禍のzoom授業でやりにくさもあったと思います。にもかかわらず、毎回、真摯に参加いただき、ありがとうございます。最後のプレゼンは、みなさん、見事で、皆さんの可能性を大いに感じました。来年度の授業や学生生活、自信をもって臨んでいただきたいと思います。近く皆さんにお目にかかる日を楽しみにしています。引き続きどうぞお元気で過ごして下さい。一緒に頑張りましょう！</p>
イギリス文学史 b	土屋 結城	<p>18、9世紀から現代に至るまでのイギリス文学の歴史を理解し、それとともにイギリスの文化、社会についての理解を深めることを目標とした授業である。アンケートの回答率がそう高くはなかったが「シラバスの内容や到達目標と一致していたか」「説明はわかりやすかったか」「板書やパワーポイント、配布資料はわかりやすかったか」「担当教員の声や言葉は聞き取りやすかったか」といった項目で4.32~4.68の評価を得た。概ね、授業の内容や目的に関しての理解は得られたと思う。今後の課題としては、4.32と評価がやや低かった双方向性と、事前事後学修の充実並びに学生の関心を継続できるような工夫をすることが挙げられる。オンデマンド授業における双方向性に関しては、フィードバックの充実を今後も図るなどして改善したい。また、学生の関心を喚起できるような関連資料も積極的に紹介していく必要があると思う。</p>
英文法論	村上 まどか	<p>数年間途絶えていた選択科目の復活であるが、このような状況下の変則的授業になるとは思わなかった。村上が得意とする英語動詞の体系の、専門的なところをわかりやすく噛み砕いて、自作プリントも用いて教えていたが、選択科目ゆえか脱落者も数名いた。授業評価もあまり高くなく残念であるが、改良を重ねていきたい。</p>
Basic Reading b	西野 方子	<p>アンケートに答えてくださってありがとうございます。これからもさらにわかりやすい説明ができるよう、工夫していきたいと思っています。半年間ありがとうございました。</p>
Basic Reading b	富塚 亮平	<p>前期同様にオンラインでの授業となったなか、文法知識や読解について前向きなコメントを数多くいただいた点は良かったです。一方で、特に指摘の多かった声の聞き取りやすさについては、来年度に再びオンライン授業を行う必要性が出た場合には、とりわけ注意したいと思っています。</p>
Intensive Reading b	三井 淳子	<p>アンケートへの協力を数回にわたり周知し、授業内に時間も確保したつもりだったが、回答数が少なく驚いている。授業のペースや課題量、説明資料等に関しては概ね好評、7~8割のポジティブな回答を得て安堵したが、皆さんの顔が見えない非対面授業における不満や不安、要望の汲み取り方法とその対応に課題があると感じている。</p>

[2020（後期）英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
近代イギリス文学・文化演習 f	若澤 佑典	アンケート回答者のみなさんが、本授業の内容におおむね満足し、十分な学習成果を得られた、という集計結果に安堵しております。オンライン形式でしたが、双方向的な授業展開をするよう頑張ってきたので、これからその工夫を継続していきたいと思います。半年間の履修、およびアンケート回答をありがとうございました。
多読演習	三井 淳子	アンケートへの協力を数回告知お願いし、授業内に時間も確保したつもりだったが、回答数が少なかったのが今後もっと留意したい。多読の非対面授業は、試行錯誤、至らない点があったと思うが、今後につながる自己研鑽の態度を掴んでくれた学生さんが多くいたこと、授業のペースや課題量、説明資料等に関しては概ね好評な回答を得て、嬉しく受け止めて入る。学生さんの顔が見えない非対面授業における不満や不安、要望の汲み取り方法とその対応に課題があると感じている。
アメリカ文学・文化講義 d	深瀬 有希子	アンケートの回答を誠にありがとうございました。普段の教室の授業であれば、音声映像をずっとお見せできるところを、オンデマンドということで、特にその点は、みなさんのご負担であったかと思っております。2020年度はコロナ禍とアメリカ合衆国選挙が重なり、いつもより力がいっていたのですが（パソコンに向かって一人語りしていました）、それが多少なりとも皆さんと共有できていれば何よりです。ここで得た知見を今後の学習や卒論執筆に少しでも活かしていただければ嬉しく思います。また、4年生の皆さんは、卒業おめでとうございます。自信をもって今後も過ごされてください。引き続きお元気で過ごしてください。陰ながら応援しています！
英語学演習 b	猪熊 作巳	かなり挑戦的な内容・手法を取り上げましたが、よくくらいついてくれたと思います。教員からの説明に関する反省点として、もっと学生の理解度によりそう工夫が必要でした。
イギリス文学・文化演習 h	志渡岡 理恵	毎回4名の受講生が、①前日までに掲示板に担当箇所のハンドアウトを投稿、②授業（zoom）ではハンドアウトを画面共有しながら発表、③教員がコメント、④翌日までに他の受講生が発表者全員へのコメントをレポートに提出（全員が閲覧可）とい流れで進めた。受講生が48名いたため、発表は各自1回だけとなったが、47名からコメントをもらえるという利点があった。 受講生はみな、作品を読み込んで自分なりに解釈し、分かりやすく伝えようと工夫をこらしていた。授業の満足度は4.42で、「理解が深まった」、「発表する力がついた」というコメントが多かったことから、授業の目標はかなり達成できたのではないと思う。回答者が19名だったので、アンケート回答の促しをもっとすべきだった。
卒論セミナー b	大関 啓子	10名のゼミ生の内、回答して下さいありがとうございます。 特殊な事情の中で、皆よく頑張ったと思います。 最初の出だしが遅く、G-mailで個別にたくさんメールをやり取りして、最後に及第点に達した時には、私も本当に感激でした。 今年が最後のゼミとなりました。 私にとって、皆さんは、忘れられないゼミ生となるでしょう。 全員揃って、ご卒業、おめでとうございます！ これからも、その時々を大切に、どうぞ皆さんお健やかで。
卒論セミナー b	佐々木 真理	本年度は4月当初から困難な状況が続きましたが、そんな中でもできる限りの資料を集め、よく卒論に取り組まれたと思います。本当にお疲れ様でした。

[2020 (後期) 英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
卒論セミナーb	難波 雅紀	<p>前期の「卒論セミナーa」では、主にZoomを使った個人指導をとおして卒論のテーマや題材を確定させ、論文の構想・構成を各自で練り上げることに取り組みました。後期の「卒論セミナーb」では、前半の授業はZoomを使い、練り上がった論文の構想・構成をより具体化し、卒論の目次をまず作成しました。その上で、後半の授業は対面授業で行ない、目次に沿うような流れで論文原稿の執筆と推敲を重ねていきました。ひとり平均10回の個人指導を行ない、最終的な卒論完成に至りました。</p> <p>卒論作成に係わって多くある誤解は、原稿を書くという行為が作業全体の大半を占めるというものです。原稿用紙換算で50枚以上になる文章をひとつのテーマで書くためには、事前に、テーマと題材の結びつけ方、それを具体的に論じていくストラテジー（戦略）を入念に立て、それに係わる資料の収集と整理を十分に行なう必要があります。そして、実はそれに費やす時間や労力の方が、文章を書く行為に割くよりも圧倒的に多いのです。卒論作成を首尾よく進めるためには、まずこの事実をしっかり認識しなければなりません。</p> <p>そういうわけで、書く前提として不可欠な上記の作業にあまり重きを置かなかつた学生は、実際に文章を書いているうちに、何をどう書けばいいのかわからなくなってしまい、立ち止まってしまうことが多かったように思います。文章を推敲したくても時間がなかったのではないのでしょうか。</p> <p>卒論からは解放されても、人間である以上、書くという行為から離れることはできません。書くということは、自分の語彙で自分の内面や考えを上手く他者に伝える、人間にとっての必須の手段だからです。言葉は偉いし脆いものですが、そのことを分かって丁寧に、誠意を込めて書くことが大切です。</p>
アメリカ文学・文化講義b	難波 雅紀	<p>アメリカで生まれ、世界中に展開するようになった音楽ジャンルのひとつがジャズですが、その誕生から現代までの歴史的展開を俯瞰することが授業の第一のテーマでした。そこでは、各時代の社会状況・文化状況を反映してスウィングやビバップ、ハードバップ、クール、モード、フリーなどのジャズのフォームが出来上がった点に注目しました。そして、それらを踏まえて、ジャズのスタンダード歌詞をリリックとしてとらえ、そこに歌い込まれているアメリカ的な物語性、精神性を読み解いてみました。これが授業の第二のテーマでしたが、そこでは歌詞を音に焦点を当て、英詩としての音韻構造を伝統としてどう継承しているのかも考察しました。そうした中で、アメリカ人やアメリカ人とは何か、というアイデンティティについての理解を深めていくのが授業の主眼でした。</p> <p>授業では、実際に学生それぞれがスタンダード歌詞を読み解いて日本語訳したり、脚韻構造を分析したりと、アクティヴラーニングがかなりのウエイトを占めました。歌詞をリリックとしての文学的内容だけでなく、音韻論的、音楽的（楽理的）な側面から見ることに、最初はかたまりてこずったように思います。でも、12回に及ぶ授業レポート（授業課題）をチェックして感じたのは、多くの学生が徐々に理解を深めていっているということでした。そうした普段からの努力と学期末レポート（最終レポート）によって成績評価しました。以下に評価方法の詳細を伝えておくことにします。</p> <p>【成績評価の方法】</p> <p>①学期末レポートの点数：100点（満点） +A=95点 A=85点 B=75点 C=65点 D=0点</p> <p>【評価の内訳】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 歌詞の日本語訳：20点 2. 歌詞の音韻上の特徴：20点 3. 歌詞の解釈（社会的、文化的意義）：20点 4. 曲目解説：20点 5. 引用文献および参考文献の明示 <p>○評価ルール②：上記の1~4に関しては、記述内容の精粗により0~10点の範囲で加減 または減点</p> <p>○評価ルール③：上記の5がない場合は5点減点</p> <p>②授業レポートの点数：計12回で各回5点（満点）=合計120点（満点） +A=5点 A=4.5点 B=3.5点 C=3点 D=0点</p> <p>【評価の内訳】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 歌詞の日本語訳または、歌詞の音韻上の特徴 2. 歌詞の解釈（社会的、文化的意義） <p>○評価ルール④：上記の1、2が内容的に申し分ない場合+A ○評価ルール⑤：上記の1または2が内容的に申し分ない場合+B ○評価ルール⑥：上記の1、2がすべて揃ってB ○評価ルール⑦：上記の1あるいは2がない場合はC</p> <p>③成績評価の配分：①は全体の40%（40点分）、②は全体の60%（60点分） ④総合得点：①×40%（40点満点）+②×50%（60点満点）=100点（満点） ⑤成績評価 +A：100~90点 A：89~80点 B：79~70点 C：69~60点 D：59~0点</p> <p>以上</p>
現代アメリカ文学・文化演習f	深瀬 有希子	<p>アンケートの回答をありがとうございました。皆さんの充実した発表とともに、米国を代表する歴史家の代表作を、アメリカ政治の変革期に、丁寧に読めたこと意義のあることだったかと思えます。ここで得た知見をもとに、皆さんが、社会にて元気で過ごされることを陰ながら応援しています！卒業おめでとう。（9月卒予定のみなさんは、この調子で自信をもって卒論を書き上げてください）</p>